

今後討議すべきテーマ案及び 在学中に実施すべき対策案

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第2回学業充実WG

2017年11月13日(月)09時～12時

第一回学業充実WGを踏まえた討議テーマの整理

学生アスリートが抱える現状・課題は、学修の機会の確保、競技優先の傾向、社会の求める人物像の変化、大学コミュニティの形成・愛校心の醸成の4つに分類することができる。また、それぞれの現状・課題に応じた目指すべき方向性は以下の通り。

	現状・課題	目指すべき方向性
学修の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 会場の確保しやすさの点等から大会が平日や土曜午前など講義と重なる 監督、コーチが大学教員及び職員ではなく、また、連携がなされていないため講義と重なる 	<ul style="list-style-type: none"> 大学を選択する際、学業が本分であることが伝わり、それを理解した上で学生が入学する事
競技優先の傾向	<ul style="list-style-type: none"> OBやボランティアによる独自の指導であるため学業ではなく競技中心指導がされてしまう 関係者に大学が学びの場であるという意識が低い リクルート制度に制限が無く高校の早期段階から大学が決まる 	<ul style="list-style-type: none"> 競技力の向上と学生アスリートの人材育成能力の双方を併せ持った優秀な指導者の確保 学生の意識やレベルに応じた基準や支援の方法があり、学業を修めることを第一に考え、大学のなすべき事項と日本版NCAAの支援すべき事項が区別されている事
社会の求める人物像の変化	<ul style="list-style-type: none"> 企業が求める人材像が「会社人」から「社会人」と変化し、運動部学生の価値が相対的に低下の傾向。 成績不良等により留年した場合、さらに就活が不利になる 自己認識(体育会だから就活は大丈夫。)と企業の目線のズレを認識していない 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の学生が「社会人」としての資質を備え、それを社会に認知してもらうこと
大学コミュニティの形成・愛校心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 学校内で試合の情報などが無い キャンパスも離れており交流が少なく応援する機運が生まれにくい 授業に欠席することも多く、一般学生との接点が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 運動部学生とそれ以外の学生の交流があり、試合等応援する文化が根差すこと

第一回学業充実WGを踏まえた討議テーマの整理

学生の意識(学生の入学方法や卒業後の進路等に起因)や置かれている環境に応じて求められる対策が異なる。

入学の方法

在学時の状況(意識の違いなど)

卒業後の進路

一般入試

スポーツ推薦

中学・高校を通じてスポーツに重点を置いていけば進学可能であるという風潮の是正

学業・スポーツへの意識が高く、
スポーツ活動により学修の機会が確保できていない

大会・練習時間の調整、指導者の理解の醸成

スポーツ活動に偏重し、
学修に対する意識が低い

成績管理、練習時間の制限、指導者の理解の醸成

学業・スポーツへの意識が高く
双方に取り組める環境がある

取組の更なる充実や表彰制度の導入

プロスポーツ選手

セカンドキャリア

企業アスリート

セカンドキャリア

一般就職

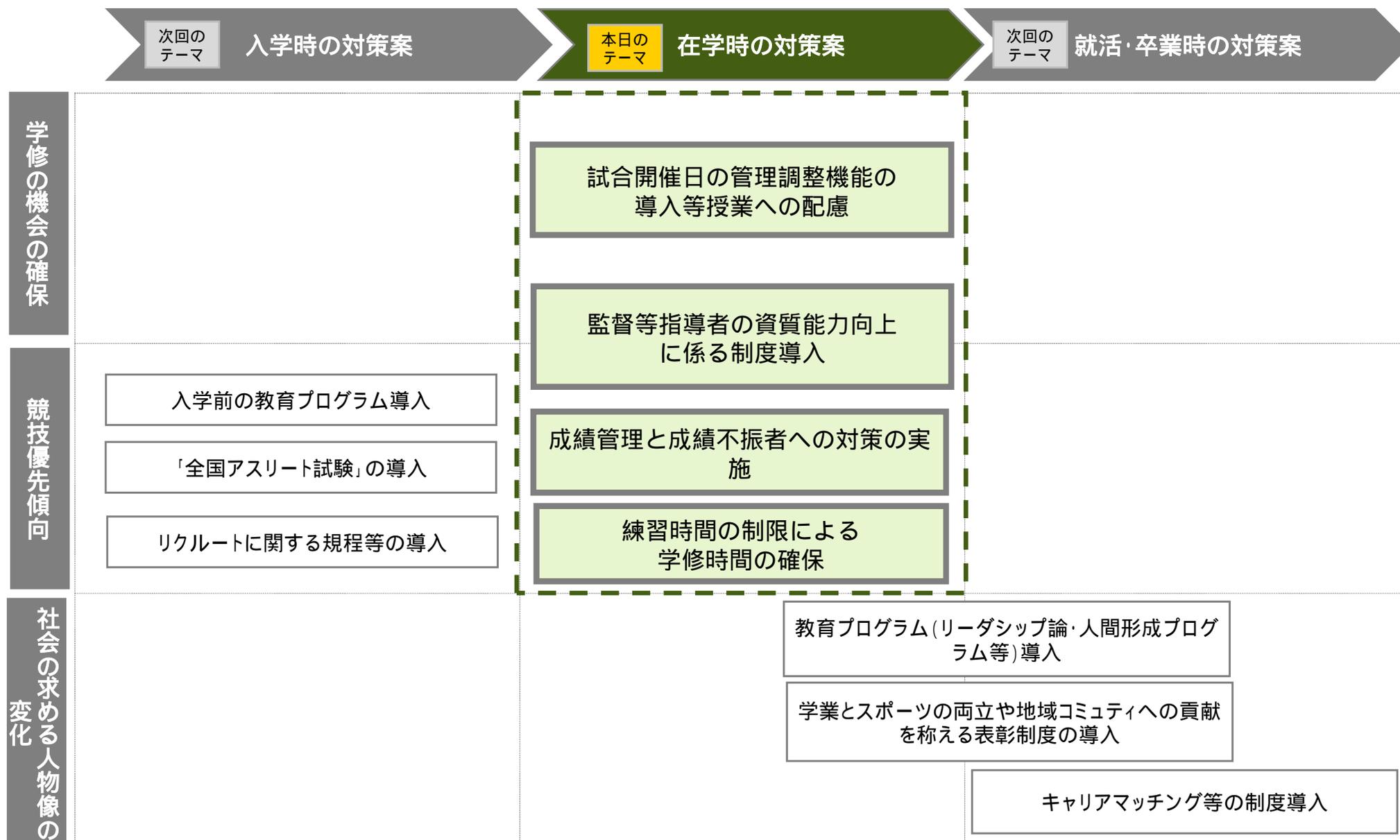
社会に貢献できる人材の育成

専門職

社会に貢献できる人材の育成

第一回学業充実WGを踏まえた討議テーマの整理

第二回目のWGにおいては、在学時の対策を中心的に討議する。また、第三回目のWGにおいて、入学時の対策や就活・卒業時の対策を討議する予定。



想定し得る在学中での対策案及び本日の論点

試合開催日程や練習時間の調整等による学修機会の確保について

問題意識

- 施設の日程等で大会が平日や土曜午前など講義と重なるため、試合の日程調整や会場管理を日本版NCAAが行うことができないか。
- 練習時間は指導者等が設定しているが、設定の際に授業時間への配慮を促すことができないか。

論点

学業と練習・試合を両立させるために日本版NCAAが提供すべき機能・サービスはなにか。

日本版NCAAは大会の主催者(学連)や練習時間の設定を行う指導者とどのように連携していくべきか。

日本代表選手やシーズンスポーツの選手等学外のスポーツ活動の日程により、学修の時間を確保することができない学生への配慮はどうあるべきか。

【討論の際の留意点】

- 主体者軸: 日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸: 実行すべき対策を短期(立上げから3年程度)で実施すべき(実施可能)事項と、中長期(3年~10年程度)で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他: 対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙がった場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる

想定し得る在学中での対策案及び本日の論点

監督・コーチ等指導者の資質・能力向上について

問題意識

- 大学等と連携して学修とスポーツの両立に係る支援制度を講じた場合であっても、大学運動部の指導者等の協力は不可欠であるため、日本版NCAAは競技指導及び人間的（学修含む）指導の「質」を担保すべきではないか。
- 大学は、大学の教育方針や学修で機会へ理解がある指導者か否か又外部指導者を把握するとともに、指導者の採用等を見直すべきはないか。

本日の論点

日本版NCAAが実施すべき対策とは何か、また短期に実行可能なもの、時間を要するものは何か。またどのように実現させるか。

例：監督・コーチのライセンス制度導入 / 監督・コーチ向け指導セミナー実施

各大学が実施すべき対策とは何か、また短期に実行可能なもの、時間を要するものは何か。またどのように実現させるか。

例：短期（監督・コーチの採用状況の把握）・長期（監督・コーチの大学の任命・直接採用）

【討論の際の留意点】

- 主体者軸：日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸：実行すべき対策を短期（立上げから3年程度）で実施すべき（実施可能）事項と、中長期（3年～10年程度）で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他：対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙がった場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる

想定し得る在学中での対策案及び本日の論点

成績管理と成績不振者への対策の実施

問題意識

- 大学・学部間で単位取得難易度が異なる中でどのように成績管理を行っていくべきか。
- 最低限取得すべき単位の「量 = 年間取得単位数」と「質 = GPA」の両方の成績管理を行うべきではないか。

本日の論点

各大学で学生アスリートの成績管理をより効率的に実施するために各大学において必要な仕組みや環境は何か、また、各大学の成績管理導入に当たっての課題は何か。

例：学部及び運動部の連携、情報管理の徹底

日本版NCAAは、成績不振の学生等に対する対応策を含め成績管理の実行力をどのように担保すべきか。また、そのためには日本版NCAAと大学・学連等の関係者はどのように連携していくべきか。

例：練習参加の制限、大会への参加停止

【討論の際の留意点】

- 主体者軸：日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸：実行すべき対策を短期(立上げから3年程度)で実施すべき(実施可能)事項と、中長期(3年~10年程度)で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他：対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙がった場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる

想定し得る在学中での対策案及び本日の論点

練習時間の制限について

問題意識

- 練習時間の統一的制限（例：米国の場合週20時間）を設けることはが学修時間の確保の観点から必要か。自発的に学修し、かつ、運動部の練習もしっかりと行っている学生に対しては過剰な制限とならないか。
- 競技力の向上と学習時間の確保のバランスをどのように担保すべきか。

本日の論点

学業とスポーツの両立の観点から、練習時間はどのようにあるべきか。（対象学生の整理等）

練習時間の把握方法等を含め実行力をどのように担保すべきか。

【討論の際の留意点】

- 主体者軸：日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸：実行すべき対策を短期（立上げから3年程度）で実施すべき（実施可能）事項と、中長期（3年～10年程度）で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他：対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙がった場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる